

## 巨峰山群の盟主を訪ねる 南アルプス 荒川三山

実施日 2014年8月3日(日)～7日(木)  
 天候 曇／曇／晴・霧・雨／晴れ／晴  
 リーダー 涌井 良明  
 参加者 涌井良明、白石恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、伊藤久雄、石原勝正、宇野輝代、徳山敬子 計10名  
 費用 JR11,660円(東京⇄新幹線) しずてつジャストライン(往復)6,200円 宿泊36,000円 合計53,860円  
 タイム 8/3 静岡(9:06～9:50) 畑薙第一ダム(13:45～14:30送迎) 榎島ロッジ(15:30) 泊  
 8/4 榎島ロッジ(5:45) 滝見橋(6:05) 送電塔(7:06～7:15) 休・1510近(8:17～8:23) 清水平(9:55～10:20 昼食) 蕨段(11:08～11:17) 駒鳥池(12:41～13:10) 千枚小屋(14:00) 泊  
 8/5 千枚小屋(6:00) 千枚岳(7:03～7:13) 丸山(8:15～8:30) 東岳(悪沢岳)(9:20～9:30) 中岳避難小屋(11:00～11:30) 中岳(11:38～11:45) 前岳分岐(11:50) 前岳(11:56～12:01) 分岐(12:05) 荒川小屋(13:15) 泊  
 8/6 荒川小屋(5:35) 大聖寺平(6:17～6:23) 小赤石肩(7:25～7:35) 小赤石岳(7:55～8:03) 東尾根分岐(8:15) 赤石岳(8:40～8:55) 避難小屋(9:00～9:10) 東尾根分岐(9:25～10:00 昼食) 北沢源頭・砲台地(11:00～11:10) 富士見平(12:20～13:00) 赤石小屋(13:25) 泊  
 8/7 赤石小屋(5:55) 休・2325 P先(6:55～7:00) 樺段(7:45～7:55) 休・1560近(8:25～8:35) 榎島登山口(9:10) 榎島ロッジ(9:20～昼食～13:00送迎) 畑薙第一ダム(14:00～14:25) 静岡(17:50～18:19新幹線)

梅雨はとうに明けたものの、今年の夏も異常なのか？連続して発生した夏台風の影響で盛夏の雰囲気を感じず、ただ蒸し暑いまま8月になってしまった。

天気予報と睨めっこしつつ、二つの台風の間を縫うように、2014年夏山の荒川三山を実施することになった。

8 / 3 静岡駅は生温い小雨模様だ。

ここから大井川上流の畑薙第一ダムまで3時間余りのバスの旅だ、決して広くはない曲りくねった道を喘ぐ如くにひたすら山奥へと分け入って行く。2回の休憩の後、東海フォレスト(榎島ロッジ)の送迎バス発着所に到着、ここからはマイクロバスに乗換えて落石も多く見られるダートな東俣林道を更に1時間揺られるとやっと登山口である榎島ロッジだ。



アプローチだけでしっかり一日かかる、昔も今も南アルプスの何と奥深いことか。

それでも榎島ロッジは山奥の施設とはいえ快適な環境と設備で、お決まりのかるーく前祝いをして初日は暮れた。

8 / 4 頭上には昨日と同じ様に何となくイヤな感じの黒い雲がかかっているが、今日は樹林帯の登りなので多少の雨はガマンするしかないだろう。6時前バス道林道を二軒小屋方面へ、滝見橋手前の千枚岳登山口から山道に入る。

直ぐに滝脇を棧道で抜けてうす暗い森の道に行く、右から近づく沢を吊り橋で渡ると崩壊のため迂回路となって、斜面を急登する、岩も多く見られる歩き易い道ではない、一息入れる辺りで送電鉄塔を見てもう一度鉄塔脇を過ぎるとガレた下りになるが距離は短い、下り切ると迂回路も終わる。尾根道の急登から林道に出て僅か





に右へ、鉄階段から再び山道になる。しばらくで緩やかになって三角点のある小石下を通過、明るく気持ちの良いシラビソ

の森の中を登る。沢音が聞こえると清水平の銘板を見る、丁度良い頃なので昼食とした。

旨い水を提供してくれたお返しに？ちょっと地面にもおすそ分けもしてあげて…？

再びシラビソの森の道を登る、曇っているので暑さもないので幸いだ。ポツンを開けた三角点のある



蕨段で休憩後、右に展望台とあるので登って見るが、当たり前だが真っ白けで展望なし。ベンチもあって晴れなら素通りしたくないかも、脇は林道が通りそのまま林道を行くと登山道から外れるので、踏跡を追って左手へ元に戻る。

右下に池が見えると駒鳥池だ、残り1時間なので、暖かいお茶でも飲もうと長めの休憩とした。

残りのワンピッチも快調に進み、辺りがお花畑になってくると千枚小屋に着いた。



小雨模様になっていたが、1500mの標高差を登って機嫌良く、初日の団欒になったのは言うまでもない。

8 / 5 昨日は見えなかった富士山が小屋の正面に大きく見えていた。今日は好天か？と期待させる。日の出も堪能して6時に小屋を後にする。花も多くなり高山帯を感じる様になった道を登る、といっても既に2700mも過



ぎているがまだ樹林帯なのはさすがに南アとを感じる。

千枚岳まで300mを切ると森林限界になり風も感じるようになる。やがて青空も広がるなか1個目の山頂、千枚岳に着く。



行く手の稜線にはガスが絡んでいるが、やはり山頂はうれしい。

さてここから悪沢岳へは岩道となり今回の核心部その1である、地図にも岩記号が記された道を辿るが、両側に咲き乱れ花が楽しませてくれる。

ガイドブックにも危険な下りとある2ヶ所の岩場を下り、ハイマツと岩屑の道を行く。



ガスが山並を流れる動画的な風景を感じつつ丸山に向

かう。ピーク下の窪地で風を避けて休憩後、最初の3000m峰の丸山を踏んでから三山にかかる、徐々にガスが周囲を隠すようになる、3000mの稜線はやはり岩が多いが危険な個所はないのでじっくりと歩を進める。急登もないままガスの中に標柱が現われると、東岳(悪沢岳)であっ

た。期待した眺望は得られないが、標高3141mは日本6位、今回の最高点である。風がやや強いこともあって



長居はせずに写真を撮って先へ進む。

折角の南アの稜線だがガスは薄くなる気配はないのがザンネンだ、岩の多い急下降が終わると中岳鞍部、緩く登ってガスの中に中岳避難小屋が見える、この頃にはガスも濃くなって小雨模様となっていた。小屋で昼食としたが、夏場は管理人がいるのだが何ともねえ…？

避難小屋から僅かで中岳となるがやは

りガスの中、写真だけとなった。

その先少し下って前岳の分岐になり、5分程で前岳に着く、東岳・中岳・前岳と荒川三山を踏破したことになるが、丸山、千枚岳も加えて荒川岳とした一つの山体と称した方が適切なののかも知れない感じも確かにある。

分岐まで戻り、荒川小屋へ向かう。

山腹の道を巻き気味に下り、尾根を回り込んで行くと、それは広大なお花畑が展開している。ガスっているのはやや残念だが、上から下まで見える範囲は黄・白・赤・ピンクが点々と風に揺れている。さすがに南アは山もで



かいがお花畑もデカイ！しばし足を止めては撮影や愛でたりで時間が過ぎる。少し遅れているとの情報もあって今年は今が最盛期のようにラッキーでもあった。

お花畑を過ぎ、緩急交じった下りで高度を下げて行き、見事なダケカンバの並木のような木立を見ると荒川小屋は近い。

相変わらずガスと小雨に包まれてはいるが、今日の充実感を味わいつつ小屋人になった。日没前にはガスも上がり始め陽も射して、明日こそ稜線からの大展望が期待できるか？この小屋も富士の姿が美しく望めた。



8 / 6 昨日の天候もあって小屋も混雑していたのか？5時希望の朝食が4時半となったのだが結果的にこれは山のカミサマの我々へのプレゼントだったかも。

赤石岳の予報が昼頃からの霧も予想していたため、少しでも早めの行動が良いと判断、5時半過ぎに小屋を後にした。少し登ると道は大聖寺平への平行路になる、赤石岳がガスに出たり隠れたりしているが、今日はすっかりガスに覆われるようなことは無さそうな兆しである。

明るく開けた気持ちの良いトラバース



道を進み、大聖寺平の標柱を見た。

ここから小赤石岳肩へ急登が始まる、夏山らしい青空と展望を

楽しみながら一步を進める。振り返ると昨日の荒川岳と一緒にせり上がってくるようだ。また荒川岳大崩壊地も不気味な

荒々しさを見せている。頭上の岩棚が積み重なったように見える小赤石岳へ岩道をジグザグに登る。徐々に青空が広がって小赤石岳の肩へ登り着く。



雲海を従えた富士、小赤石岳の奥に本峰、北に昨日の荒川岳と奥に僅かに塩見

岳も望める。一息入れて岩道を登り小赤石岳へ、赤石岳本峰が遮るものもなく大きい。聖岳方面からの山稜もくっきり、百



間平も見えている。

北沢への下山路分岐を過ぎると本峰へ最後の登りとなり、右奥に聖岳の姿も見られると赤石岳に着いた。南アルプスの

地理学名になっている、赤石山脈の盟主3120mの頂である。

昨日と違い今日の青空が何ともウレシイ！



思い思いに写真を撮って南ア盟主の頂を楽しんだ。すぐ下の避難小屋で大休止のつもりだったが、意外と風も冷たいので下山路分岐まで戻ることにして、再び山頂を越して行く。途中で今回唯一、雷鳥親子と対面できた。

分岐で下山路に備えて昼食を摂ってから、二日に亘る下山になった。

この頃になると赤石岳付近もガスに隠

されることも多くなっており、今朝の早めの出発が良かった結果となった。

早だちを演出してくれた山のカミサマに感謝である。

北沢源頭へ下りは急だが花も多い岩とガレの交る道を下る、東斜面になっているが昨日程ではないが一面のお花畑であり、花と足元に注意しながらゆっくりと下る。



北沢源頭の小平地(昭文社では砲台休憩所)からは、トラバース道とななってくる。小さく岩場の登降、足場の狭い場所や栈道の通過も数ヶ所ある注意を要する道である。



標高も下がり灌木帯の道となり、道が尾根上になると展望台となっている富士見平だ。

北側正面に歩いて来た千枚岳から荒川岳の稜線がくっきりと望め、更に南ア南部の山々も望むことが出来る、雲隠れしていた富士も地名に免じて？姿を見せてくれた。



赤石小屋まで残り30分とあるので、たっぷり時間を取って展望台を満喫した。すっかり樹林の道となった尾根を下り赤石小屋に到着した。

一段落後は最終泊でやっとな夏山恒例？



のテラスでの乾杯と団欒を西陽を目一杯受けながら本当に目一杯楽しんだ。

また、小屋も今日は比較的空いており、となれば今日はこぶし会の10人力で小屋管理の東海フォレストへの貢献度は誠に大であると言えるだろう。(なんのこっちゃ！)

今山行のラストナイトはゆったりと過ごすことができ満足な一夜となった。

8/7 今日は樫島までの3時間半の下りを歩く。

小屋前から赤石岳と聖岳に小屋裏展望台から荒川三山に別れを告げて、二日目の下山路を樫島に向かう。下るにつれ灌木から樹林へと変わって行く。



ボッカ返しとある小さな岩場が混じった箇所もある



が、急ぐ必要もなく、全員無事の下山が何よりなのでゆっくりと確実に下る。樺段で一旦緩やかになるが、ミズナラの巨木も

ある森の道をひたすら下って行く。ゆっくりでも下りは早い、やがて下に白く林道が見え隠れすると、鉄階段を下って林道に降り立ち、ひとまず今山行のゴールとなった。



予定の日程と行程で全員無事完走できたことが何よりうれしく、メンバーは勿論その他全てのものに感謝したい。アリガトウ！

また来年もこぶし会で夏山が計画が出来るなら、素晴らしい山との出会いを楽しめたら嬉しいと思う。

ブラボー！！ 荒川岳・赤石岳そして南アルプス！

(記&写真・涌井 良明)

(写真提供・伊藤 久雄)

※今山行は入下山時アプローチを列車Gと車Gと別れての行動となったが、会山行としての一体感からは好ましいとは言えないだろう。当会でこのような事項の決めはなかったので今回別行動も可としたが、会山行については可能な限り山行計画書或はCLが示したプランに従って参加することが望ましいと考えている。